

## 令和6年度 「学校評価」からの考察及び次年度への改善策

徳島市上八万小学校

教職員 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない

保護者 A:よくあてはまる B:おおむねあてはまる C:あまりあてはまらない D:ほとんどあてはまらない

児童 A:そうだ B:たぶんそうだ C:たぶんちがう D:ちがう

### 1 学校運営について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	学校教育目標(学校経営方針)は、子どもや地域の実態にあっている。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
	学校教育目標に向かって、学校運営がされている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
保護者	学校は、保護者や地域の願いにこたえた教育活動を行っている。	28.0%	63.7%	7.7%	0.6%
	お子さんは、学校へ楽しく行っている。	55.4%	34.5%	8.3%	1.8%
児童	学校に来るのが楽しい。	63.4%	25.4%	6.9%	4.3%

#### 成果

- ・学校教育目標を概ね達成することができたと考える。
- ・「学校は保護者や地域の願いにこたえた教育活動を行っている」については、A、B合わせて91.7%の回答であった。保護者や地域の願いに応える教育活動が概ねできたと考えている。
- ・教育活動については、児童の健康・安全に考慮しながら、その都度協議・判断してきた。来年度も、児童の健康・安全を第一に考えながらも児童の願いに沿った教育活動を展開していきたいと考える。
- ・学校にくるのが楽しいと思える児童が100%になるように、楽しくわかる授業はもとより、温かい人間関係づくりに努めていきたい。
- ・「お子さんは、学校へ楽しく行っている」については、A、Bの項目が少し減り、Cの項目が昨年より増えている。来年度も今まで同様、こまめに保護者との連携を図って児童理解に努めたい。

### 2 情報発信について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	学校公開や情報発信に努めている。(参観授業・オープンスクール・学年だより・ホームページなど)	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
保護者	学校は、学校行事や子どもの様子などを、わかりやすく伝えている。	25.0%	61.9%	10.7%	2.4%

#### 成果

- ・警報等の連絡及び周知内容等の情報については、マチコミメールを使い、タイムリーに伝えるように努めた。
- ・行事予定等は、可能な限り早く保護者へ連絡できるように努めた。
- ・行事予定等で保護者が参加するものは、できるだけ早くお知らせするように努める。
- ・ホームページの更新を望んでいる保護者が多いので、今後も、個人情報に配慮しながら情報発信に努める。
- ・学年だより等をマチコミメール発信にしたが、紙媒体での配布希望の保護者もいるので、その保護者には個別に対応し、できるだけ要望に応えられるようにした。

### 3 保護者との連携について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	保護者からの連絡や相談に、適切に対応している。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
	保護者と連携し、子どもの成長を支援している。	47.1%	52.9%	0.0%	0.0%
保護者	学校(教職員)は、いじめや差別のない学校・学級づくりに取り組んでい	29.2%	61.9%	7.1%	1.8%
	学校(教職員)は、保護者からの相談に親身になって応じている。	39.9%	54.2%	4.8%	1.2%

#### 成果

- ・保護者の「いじめや差別のない学校・学級づくりに取り組んでいる。」の項目においてA、Bの項目が増え、C、Dの項目が減っているので、日頃の学級経営が保護者への安心感につながっていると考えられる。
- ・日頃の保護者との電話連絡や連携が信頼につながり、「親身になって応じている」の項目のA、Bが増え、C、Dの項目が減った。今後も、保護者との連携を密に取り、家庭と学校の両輪で子どもを育てていきたい。
- ・学級で児童がよりよい学校生活を送れるよう、学校組織として検討・対応し、子どものよりよい成長につながる方法を考えてきた。これからも、教職員間の連携を密に取り、「チーム学校」として対応していく。
- ・これからも、保護者からの連絡相談については、電話・連絡ノート等において迅速に行い、連携を密にしていきたい。

### 4 児童理解について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	児童理解に基づき、一人一人のよさが生かされる学級経営に努めている。	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%
保護者	学校(教職員)は、子どものことをよく理解しようとしている。	38.7%	52.4%	6.5%	2.4%
児童	なやんだり困ったりしたときには、相談している。	59.7%	28.1%	8.3%	4.0%

#### 成果

- ・児童理解については、児童・保護者からも肯定的な評価が多く、かつ、昨年度よりもA、Bの項目が若干上がった。今後もしっかりと見取りを行い、児童理解を行っていくとともに、C、Dの項目が0になるよう努める。
- ・教職員間で子どもの情報を共有し、様々な角度から児童の強みやよさを見取ることができるよう、指導・支援に努める。
- ・学級内で、誰にでも相談できる雰囲気を作ってきたおかげで、児童の「なやんだり困ったりしたときは、相談している。」の項目においてAが24.5%も上がった。今後も子ども対子どもや子ども対教師の人間関係を深めていく必要があると考える。

### 5 学力向上について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	各教科の指導内容について、基礎基本を明確にし、わかる授業の工夫をしている。	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
	子どもの興味・関心・意欲を喚起するように、指導方法の工夫・改善に努	35.3%	58.8%	5.9%	0.0%
	個に応じた細かな指導を実践している。(適切な支援・発展的な指導)	29.4%	58.8%	5.9%	5.9%

保護者	学校(教職員)は、わかりやすい授業をしている。	33.9%	57.7%	6.5%	1.8%
児童	学校で勉強していることがよくわかる。	55.3%	37.1%	6.3%	1.3%
保護者	お子さんは、家庭学習の習慣が身についている。	22.6%	52.4%	20.2%	4.8%
児童	家庭学習をきちんとしている。	61.9%	29.5%	7.3%	1.3%
	進んで読書に取り組むことができている。	46.7%	31.8%	14.2%	7.3%

成果

- ・教職員は、よくわかる授業をするために指導方法の工夫・改善に取り組んでいる。わかる授業についてはA、Bに回答した保護者は91.6%、児童は92.4%あり、工夫・改善の成果が出ている。
- ・朝の活動である「せきいんタイム」も児童の中に定着し、学習全般に対し、落ち着いて取り組めている。
- ・進んで読書に取り組む児童が78.5%で昨年度より5%上がった。今後も学校図書館経営等のさらなる活性化をとおり、読書のよさを味わわせるようにする。
- ・GIGA端末に関して、新しいアプリ等を積極的に活用し、学習指導において、今年度の取組を礎により発展させていきたい。

6 人権教育について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	差別や偏見・いじめのない学級集団づくりに努めている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
	よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心を育成するように努めている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
保護者	学校(教職員)は、思いやりや社会のルールを守る気持ちを育てている。	32.7%	58.3%	8.3%	0.6%
児童	友だちに意地悪やいじめをしていない。	71.0%	19.5%	4.3%	5.3%
	意地悪やいじめのないクラス・仲間づくりにがんばっている。	66.9%	27.8%	3.3%	2.0%
	困ったときに、助けてくれる友だちがいる。	76.5%	18.9%	2.3%	2.3%

成果

- ・児童において、「友だちに意地悪やいじめをしていない」のA、Bに回答した割合は90・5%、「意地悪やいじめのないクラス・仲間づくりにがんばっている」のA、Bに回答した割合は94.7%であった。思いやりや仲間づくりの意識の醸成が図られている。
- ・保護者において、C、Dに回答した割合が昨年度より若干増えた。0%に近づけるよう、児童に対して、特別の教科道徳の授業を充実させ、道徳教育の推進を図っていくとともに、学校目標である人権尊重の精神を基調とする学校として情報発信も心がける。
- ・教職員一人一人が地域の現状から学び、さらに人権感覚を高め、児童の自尊感情や自己肯定感、自己有用感の育成に努めていく。

7 特別支援教育について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている子どもに対して、より適切な支援に努めている。	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
	特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制が整備されている。	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%

成果

- ・通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている児童に対して適切な支援ができるよう、教員同士で情報を共有し、どのような支援が必要か具体策を考える。
- ・全教職員が連携・協力し特別支援教育を充実させるとともに、特別な支援を必要としている児童たちに組織として対応していく。
- ・教職員が特別支援教育に対する正しい理解と認識を育てるとともに、保護者への啓発にさらに努めていきたい。
- ・子どもがよりよい学校生活を送ることができるよう、専門家からの意見を参考にしたり、研修を充実させたりして今後も継続した取組を行う。

8 基本的な生活習慣について

2024

対象	内 容	A	B	C	D
教職員	子どもに基本的な生活習慣が身に付くための働きかけを日常的に行っている。(あいさつ)	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
保護者	お子さんは、礼儀正しく、あいさつがよくできている。	19.6%	64.3%	13.7%	2.4%
児童	進んであいさつができている。	65.3%	27.4%	5.3%	2.0%
	れいぎ正しく、正しい言葉づかいで話ができている。	45.9%	40.6%	9.9%	3.6%
	家で、「おはよう」「ただいま」などのあいさつが言えている。	76.6%	16.5%	3.6%	3.3%
教職員	子どもに基本的な生活習慣が身に付くための働きかけを日常的に行っている。(早寝・早起き・朝ご飯の生活習慣)	29.4%	58.8%	11.8%	0.0%
保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についている。	41.7%	44.0%	11.9%	2.4%
児童	「早寝・早起き・朝ごはん」ができている。	54.8%	25.4%	12.2%	7.6%

成果

- ・児童は、進んであいさつができるについては、A、Bに回答した割合が92.7%、家でのあいさつが言えているについては、A、Bに回答した割合が93.1%と高い。児童は、家でも学校でも、あいさつに対する意識が高いことが見える。
- ・教職員は、常時指導や委員会活動等において常に高い意識をもって、児童に基本的な生活習慣が身につくよう働きかけを行っているため、今後も続けていきたい。
- ・児童には、引き続き食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう食育推進パワーアップ事業を継続して行ったり、食育の授業を行ったりすることにより、食に対する意識を高めていきたい。